

# 秋の三者総会議案書

2006 年度三者事務局

平成 17 年 9 月 8 日

## 目次

<b>1</b>	<b>2005 年度三者センター校（東京工業大学） - 2005 年度夏の学校決算報告</b>	<b>2</b>
1.1	収入	2
1.2	支出	2
1.3	各役職校の支出	2
<b>2</b>	<b>2006 年度三者センター校（九州大学） - 2006 年度夏の学校予算案</b> [’05/09/05 現在]	<b>4</b>
2.1	収入予定（概算）	4
2.2	支出予定：各役職校からの予算申請を元に作成、内訳は次節以降に記載	4
2.2.1	各三者役職校の支出	5
2.2.2	各パート役職校の支出	6
2.3	講師旅費の使い道について	6
2.3.1	経緯	6
2.3.2	現状	7
<b>3</b>	<b>2006 年度三者準備校（京都大学） - 2006 年度夏の学校開催地</b>	<b>7</b>
3.1	2006 年度夏の学校開催地について	7

# 1 2005年度三者センター校（東京工業大学）- 2005年度夏の学校決算報告

文責：佐藤隆一（東京工業大学）

## 1.1 収入

内訳	2005年度	2004年度
前年度繰越金	1,489,544	1,455,430
基研*（講師旅費）	418,900	500,000
基研*（ポスター印刷費 <sup>‡</sup> ）	53,025	72,500
素G	450,000	450,000
参加費（3,000×参加人数）	825,000	831,000
計	3,236,469	3,308,930

\* 2005年度以降は基研の援助額は、講師旅費とポスター印刷費を合わせて（上限）50万円。

<sup>‡</sup> ポスター印刷費は、実際にかかった費用が支払われる（上限10万円）。

## 1.2 支出

内訳	2005年度申請額	2005年度決算額	2004年度決算額
三者センター校	3,000	360	1,410
三者準備校	457,700	232,251	184,472
三者事務局	4,000	0	0
パート役職校総計	34,080	36,675	37,784
WG総計	0	0	0
講師旅費*	-	120,340	83,650
ポスター印刷費	100,000	53,025	72,500
学生旅費補助	-	1,358,580	1,439,570
次年度繰越金	-	1,435,238	1,489,544
総計	-	3,236,469	3,308,930

\* 講義を行った講師、研究会のレビュートーカーとして三者から招いたPDの旅費

## 1.3 各役職校の支出

- 三者センター校（東京工業大学）

申請項目	2005年度申請額	2005年度決算額	2004年度決算額
振込手数料*	3,000	280	1,410
郵送費 <sup>‡</sup>	0	80	0
旅費（基研） <sup>‡</sup>	0	0	0
総計	3,000	360	1,410

\* 各役職校への郵便振込手数料。

<sup>‡</sup> 素粒子論グループへの領収書の郵送代。

<sup>‡</sup> 基研からは旅費が1人分しか支給されないの、基研へ2人行く場合、2人目の分を三者から負担する。

- 三者準備校（大阪大学）

申請項目	2005 年度申請額	2005 年度決算額	2004 年度決算額
下見・交通費	0	0	14,010
施設使用料金	207,700	186,400	65,400
コピー代	120,000	5,100	20,320
文具代	30,000	12,811	9,462
通信費	30,000	135	25,000
郵送料	40,000	26,650	32,800
手数料	30,000	1,155	17,480
総計	457,700	232,251	184,472

- 三者事務局（名古屋大学）

申請項目	2005 年度申請額	2005 年度決算額	2004 年度決算額
コピー代	4,000	0	0
総計	4,000	0	0

- 素粒子パート準備校（新潟大学）

申請項目	2005 年度申請額	2005 年度決算額	2004 年度決算額
録音関係費	12,000	12,836	13,678
通信関係費	2,500	800	7,930
消耗品代	2,500	0	934
研究会費	2,000	777	1,478
懇親会費	-	3,000	-
総計	19,000	17,413	24,020

- 原子核パート準備校（新潟大学）

申請項目	2005 年度申請額	2005 年度決算額	2004 年度決算額
原子核研究郵送料	9,080	9,860	9,080
文房具代	1,000	3,402	924
懇親会費	-	3,000	-
総計	10,080	16,262	10,004

- 高エネルギーパート準備校\*（東邦大学）

申請項目	2005 年度申請額	2005 年度決算額	2004 年度決算額
文房具代	5,000	0	3,760
懇親会費	-	3,000	-
総計	5,000	3,000	3,760

\* 高エネルギーパートは参加者が少ないため、2006 年度は休止。

- その他（三者 ML・HP 校/素粒子パート事務局/原子核パートセンター校/セクハラ対策 WG/運営 WG）

申請項目	2005 年度申請額	2005 年度決算額	2004 年度決算額
総計	0	0	0

## 2 2006年度三者センター校(九州大学) - 2006年度夏の学校予算案

[ '05/09/05

現在]

文責：小島健太郎(九州大学)

### 2.1 収入予定(概算)

- (1) 前年度繰越金(2005年度決算終了時の繰越金額を記載)：¥1,480,000  
 (2) 参加費(参加者が300名の場合)：¥3,000 × 300 = ¥900,000  
 (3) 外部団体への援助・協賛申請(前年度と同様、内訳は下表)：¥1,050,000

団体名	内容	今年度申請額
素粒子論グループ	旅費補助	450,000
基研	講師旅費等*	500,000
基研	ポスター印刷費 <sup>‡</sup>	100,000
RCNP	協賛	0
原子核談話会	協賛	0
高エネルギー研究者会議	協賛	0
申請額合計		1,050,000

\* 現金化の廃止に伴い大きく減額する可能性がある。

<sup>‡</sup> ポスター印刷費は、実際にかかった費用のみが支払われる。

収入合計：(1) + (2) + (3) = ¥3,430,000

### 2.2 支出予定：各役職校からの予算申請を元に作成、内訳は次節以降に記載。

役職名	今年度予算(案)	前年度決算額*
三者センター校	33,000	340
三者事務局	4,000	0
三者準備校	360,000	221,501
三者名簿校	0	0
三者HP・ML校	0	0
素粒子論パート事務局	0	0
素粒子論パート準備校	23,000	17,413
原子核パートセンター校	0	0
原子核パート準備校	13,200	16,262
高エネルギーパート準備校	0 <sup>‡</sup>	3,000
計	433,200	258,516

\* 前年度決算は2005年度三者センター校の決算報告に基づいている。

<sup>‡</sup> 2006年度から高エネルギーパート休止のため。

(注.) 他に『学生旅費補助』、『次年度繰越金』、『ポスター印刷費(上限10万円)』、『講師旅費』などがある。

### 2.2.1 各三者役職校の支出

- 三者センター校 (九州大学)

申請項目	申請額
振込手数料	3,000
旅費 (未定*)	30,000
申請額合計	33,000

★ 2005年度の秋季大会原子核分科会はハワイで行われる。そのため、素粒子論グループへの援助申請を行う際に必要となる核理論サブグループに対するプレゼンを、学会以外の場で設けなければならない。現在どこで行うかは未定であるが、その際の旅費についての申請である。

- 三者事務局 (神戸大学)

申請項目	申請額
コピー代	4,000
申請額合計	4,000

- 三者準備校 (京都大学)

申請項目	申請額
下見・交通費	20,000
施設使用料金	150,000
コピー代	60,000
文具代	30,000
通信費	30,000
郵送費	40,000
払出し手数料	30,000
申請額合計	360,000

- 三者名簿校 (広島大学, 未申請)

申請項目	申請額
なし*	0
申請額合計	0

★ 名簿は印刷、配布の必要がないため。

- 三者 ML・HP 校 (早稲田大学\*)

申請項目	申請額
なし	0
申請額合計	0

★ 2005年度 ML・HP 校の千葉大学から早稲田大学への引き継ぎが難航していたため、千葉大学の方から代理申請を受けた。

## 2.2.2 各パート役職校の支出

パート名	今年度予算(案)	前年度決算額*
素粒子	23,000	17,413
原子核	13,200	16,262
高エネルギー	0	3,000
パート予算合計	36,200	36,675

\* 前年度決算は 2005 年度三者センター校の決算報告に基づいている。

### ● 素粒子論パート

- － 素粒子論パート事務局 (不明, 未申請)

申請項目	申請額
なし	0
申請額合計	0

- － 素粒子論パート準備校 (金沢大学)

申請項目	申請額
録音関係費	13,000
機材送料	6,000
消耗品代	2,000
研究会費	2,000
申請額合計	23,000

### ● 原子核パート

- － 原子核パートセンター校 (千葉大学, 未申請)

申請項目	申請額
なし	0
申請額合計	0

- － 原子核パート準備校 (東北大学)

申請項目	申請額
「原子核研究」配送費用	10,200
文房具代	3,000
申請額合計	13,200

## 2.3 講師旅費の使い道について

### 2.3.1 経緯

例年、三者若手は講師旅費として基研から 50 万円を上限とする援助を受けている。

2005 年度までは、この援助金は現金化という方法をもって使用されていた (現金化の詳細については省きます)。この現金化の方法は、実際の講師の方に、できるだけ自身の研究費で夏の学校へ来てもらうことで、学生の旅費補助に回す金額を大きく確保できるという利点があった。また、基研への旅費申請を行う際に立てる学生を調整することで、毎年上限の 50 万円に近い金額を使いきることができていた。

しかし一方、現金化の方法は、講師旅費として援助してもらったお金が実際は学生の旅費補助に回っている等、不健全な点があるとも考えられていた。そのため、現金化の廃止が2005年夏の学校における三者総会で提案され、承認された。また同時に、「今年度のセンター校が基研へ援助申請を行う際に、講師旅費という名目の変更を試みる」ということが承認された。

これを受け、2006年度センター校である九大は、何らかの形で援助の名目変更を試みるつもりである。もしこれが成功し、援助名目が講師旅費ではなくなった場合、50万円という枠を2005年度までと同様に使える可能性がある。しかし、2005年度センター校の方や基研の方の話を聞いた限りでは、名目変更が実現する可能性は非常に低いと思われる。

名目変更が実現しなかった場合、50万円の講師旅費は実際に講義を行う講師の方の旅費としてのみ使われることとなる。その場合、講師の方全員が夏の学校からの旅費補助を希望すれば50万円の枠をうまく使いきれる可能性がある。しかし実際は、自身の研究費を使う方もいると思われるため、50万円のうちのどの程度が消化されるかは予測がつかない状況である。

我々が基研のスタッフの方に、講師旅費として使用した金額が50万円を大きく下回っても良いか尋ねたところ、そのような場合は予算申請の際の計画が不十分であると見なされ、次年度に50万円という枠を保持することが難しくなるだろう、という回答を得た。そのため、名目変更ができなかった場合に、基研からの援助をどのように使うかを考えておく必要がある。

### 2.3.2 現状

現在までのところ、センター校内での議論により出た案は、

- 講師以外に学生と区別できる身分の方を呼び、その方々の旅費として使う

という案である。これは、例えばPDの方等に研究会でのレビュートーク等をお願いし(実際原子核パートは例年2名のレビューターカーがいる)、その方に対する旅費の補助として使うという方法である。ただし、この場合誰がレビューターカーを選出するかという事が問題となるだろう。また、レビューターカーをお願いした方でも自身の旅費を持っている可能性があるため、50万円近くに調節するのが難しいかも知れない。

このような状況をふまえ、講師旅費をうまく使いきる方法について、三者総会の場で提案、意見を求めたいと思います。

## 3 2006年度三者準備校(京都大学)-2006年度夏の学校開催地

### 3.1 2006年度夏の学校開催地について

当日に担当者から2006年度夏の学校の開催地について報告があります